



「北の住みいるタウン」の実現に向けて（当別町）



平成29年5月

当 別 町

目次

1. はじめに.....	1
(1) 本書の趣旨.....	1
(2) 構成.....	1
2. 当別町の概要.....	2
(1) 位置・地勢.....	2
(2) 交通.....	2
(3) 人口.....	4
(4) 産業.....	6
(5) 土地利用.....	6
(6) 地域の構造.....	7
3. 課題の整理.....	8
(1) 当別町の現状.....	8
(2) 課題の整理.....	13
4. 取組の方向性と具体的な取組.....	15
(1) 取組のコンセプト.....	15
(2) 取組の方向性と具体的な取組.....	16
○資料編.....	21
資料1 「北の住まいるタウン」当別町地域協議会構成員名簿.....	21
資料2 「北の住まいるタウン」当別町地域協議会取組経過.....	22

1. はじめに

(1) 本書の趣旨

北海道の優位性が活かされ、地域特性に応じ、安全・安心で暮らしやすく、資源循環が進んだ効率的な都市構造を有する、誰もが安心して心豊かに住み続けられるまち・地域づくりを目指す「北の住まいるタウン」の推進に向けて、北海道が募集した、コンパクトなまちづくりや低炭素化・資源循環及び生活を支える取組を一体的に進めるモデル市町村に選定されたことから、町内の関係する住民の方々からなる「地域協議会」を設置し、これまで課題の整理や取組の方向性などの必要な検討等を行ってきた。

本書では、これまで取り組んできた地域協議会での検討内容を踏まえ、今後当別町として「北の住まいるタウン」を推進するため取り組む事項を計画に取りまとめるものである。

(2) 構成

本書の構成は、以下のとおりとなっている。

本書の構成

はじめに

- 本書の趣旨及び構成を整理

当別町の概要（P2～P7）

- 当別町の概況の整理（位置・地勢、交通、人口、産業、土地利用）
- 町の概況から、地域の構造を「市街地」、「生活拠点地域」、「周辺地域」として整理

課題の整理（P8～P14）

- 当別町の概況、現状をもとに、課題を整理

取組の方向性と具体的な取組（P15～P20）

- 整理された課題等をもとに2つのコンセプトを作成、コンセプト毎に考察した上で、取組の方向性及び具体的な取組を整理

2. 当別町の概要

(1) 位置・地勢

- 当別町は石狩平野の北部、北海道の中心「札幌圏」に位置する。
- 隣接する市町村は、北部に新十津川町、西部に石狩市、東部に浦臼町、月形町、新篠津村、南部に札幌市、江別市と接し、札幌市や江別市といった産業集積市の隣地にある。
- 東西26km、南北は47kmと南北に細長く広がり、面積422.86㎢、石狩管内の約11.9%を占める。
- 夏は雨が少なく涼しい日が多く、冬は管内でも有数の豪雪地帯である。

(2) 交通

- 札幌大橋の開通や国道337号の4車線化、JR学園都市線の電化・増便などにより札幌市との交通アクセスが充実。
- 石狩湾新港と新千歳空港とを結ぶ国道337号が通過しており交通の要衝となっている。

■JR

- 石狩当別駅から札幌駅までJR 学園都市線で37分。
- 石狩太美駅から札幌駅までJR 学園都市線で31分。

■自動車

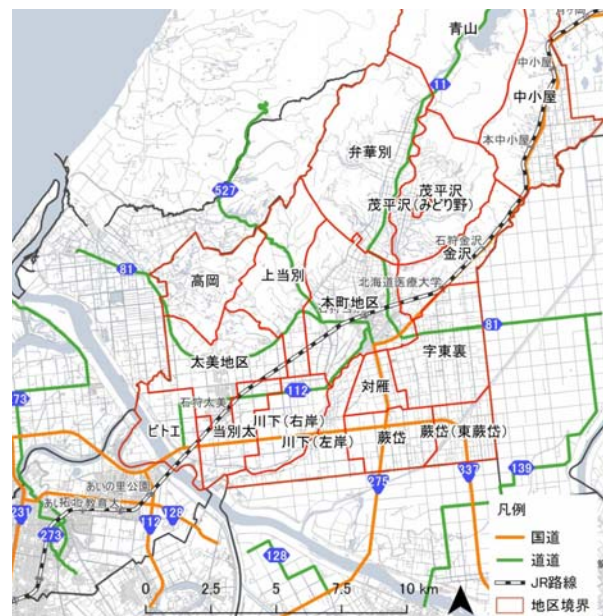
- 本町地区から札幌市中心部まで車で約40分（R275）。
- 本町地区からあいの里まで車で約20分（R337）。
- 太美地区からあいの里まで車で約15分（R337）。
- 本町地区、太美地区から江別市街まで車で約25分（R337、R275）。
- 本町地区、太美地区から新千歳空港まで車で約1時間（R337）。

■当別ふれあいバス（3路線）

- あいの里金沢線：北海道医療大学当別キャンパスとあいの里キャンパスを結ぶ路線。
（経由：JR 石狩当別駅、スウェーデンヒルズ、JR 石狩太美駅など）
- 青山線：青山会館とJR 石狩当別駅を結ぶ路線。
（経由：ゆとろ、とうべつ整形外科、みどり野団地など）
- 市街地予約型線：電話予約により運行エリア内を運行する路線。
（運行エリア：西町・北栄町・春日町・東町・緑町・元町・白樺町・園生・錦町・弥生・末広・美里・幸町・下川町・栄町・樺戸町・六軒町・若葉の一部
「パーソナルタウン」・東裏・蕨岱・対雁）



当別町と周辺都市との位置関係



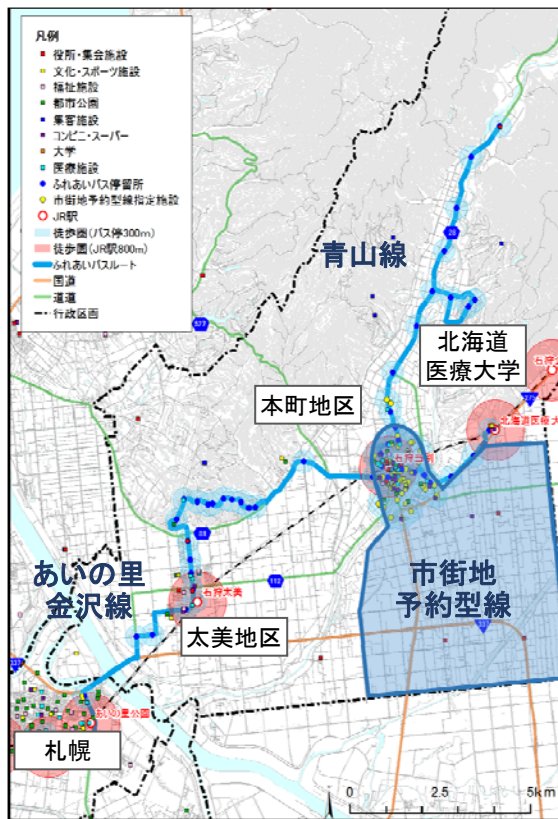
町内の主な道路

■町内の主な道路

- ・国道 337 号：新千歳空港～石狩湾新港～銭函間。
- ・国道 275 号：札幌市～浜頓別町間。

当別町内は、蕨岱～本町地区～中小屋間。

- ・道道当別浜益港線（28）：本町地区～青山～神居尻地区（道民の森）間。
- ・道道岩見沢石狩線（81）：東裏～本町地区～高岡間。
- ・道道札幌当別線（112）：本町地区～太美地区～ビト工間。
- ・町道は、国道や道道を補完するよう設置されている。



当別町ふれあいバス路線と主な施設

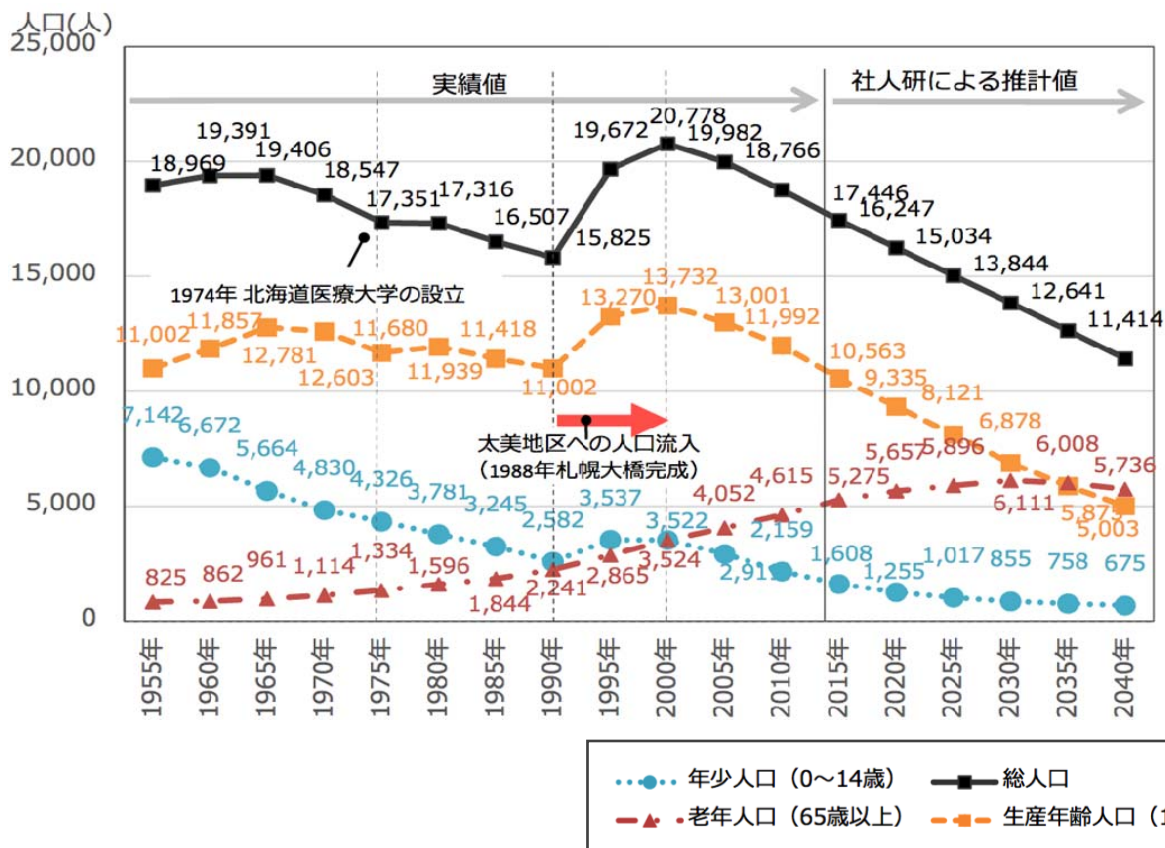


市街地予約型線指定施設一覧（62 か所）

(3) 人口

■人口推計

- ・昭和40年（1965年）から人口減少が始まり、平成2年（1990年）には約15,000人まで減少。
- ・昭和63年（1988年）の札幌大橋完成に伴う太美地区の開発によって人口流入が進み、平成11年（1999年）には20,000人を超えた。
- ・宅地開発が収束すると人口減少に転じ平成22年（2010年）には18,766人となった。
- ・平成27年国勢調査によれば、人口は、17,278人である。
- ・今後も人口減少が進み、平成52年（2040年）には約11,000人になると推計されている。



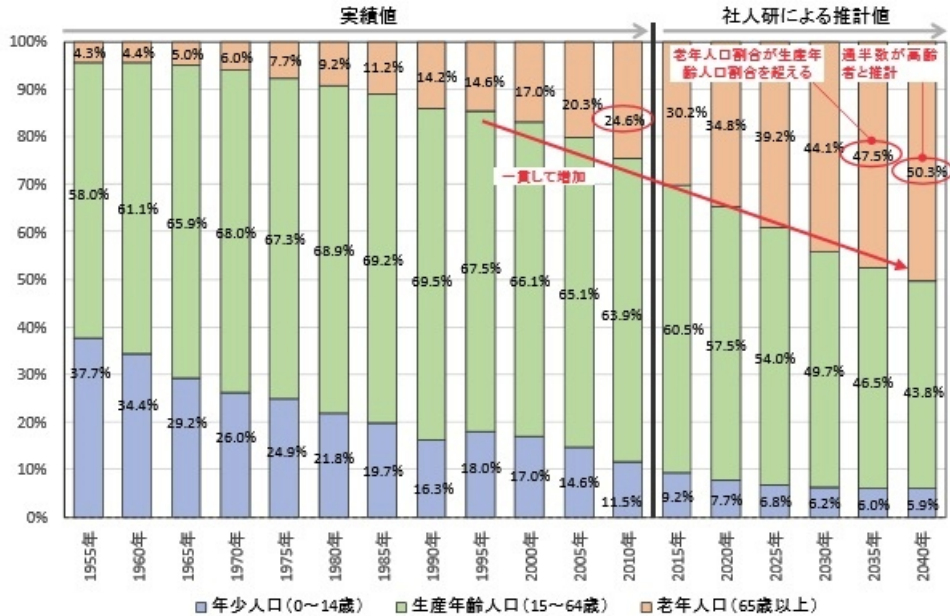
図表 年齢3区分別総人口の推移と将来推計

出典：当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略

（総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計（平成25年3月推

■地区別人口と少子高齢化

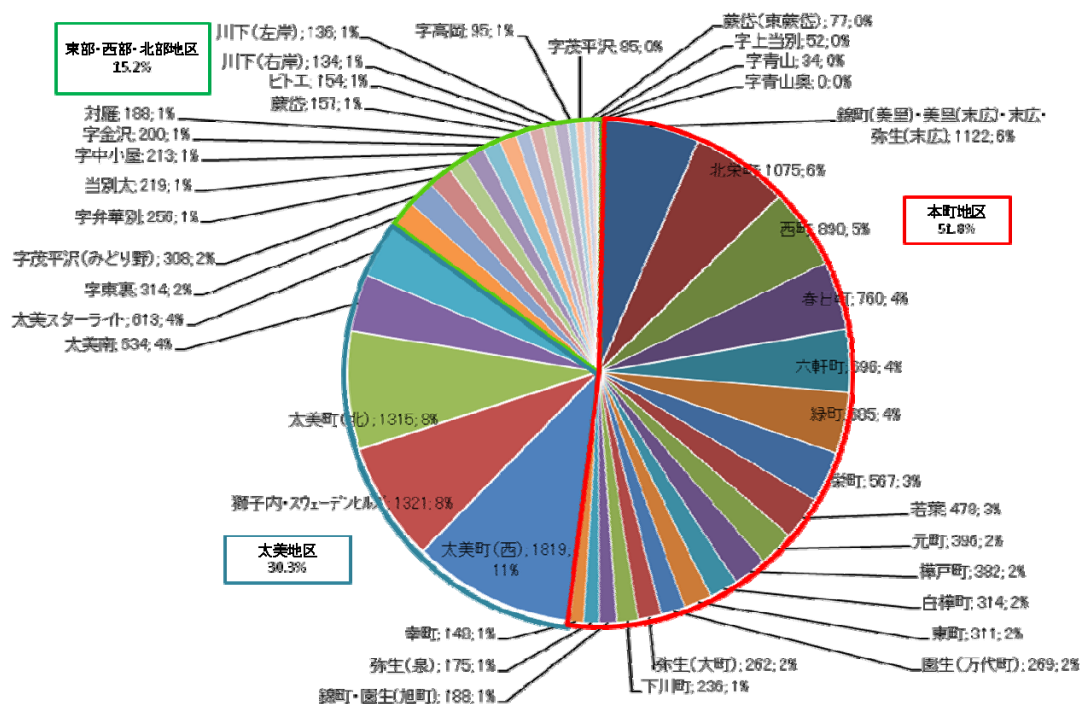
- 本町地区の人口は町全体の約 52%、太美地区の人口は町全体の約 30%である。
- 面積が町全体の約 3%を占める本町地区及び太美地区に住民の約 82%が居住している。
- 総人口に占める年少人口と生産年齢人口の割合は平成 7 年（1995 年）以降減少した。
- 平成 22 年（2010 年）に高齢化率が 24.6%となり、超高齢社会（総人口に占める老年人口の割合が 21%以上）に突入し、平成 27 年（2015 年）には、30.2%となった。
- 平成 47 年（2035 年）には老年人口が生産年齢人口を上回り、平成 52 年（2040 年）には高齢化率が 50%を超えると推計。



図表 年齢3区分別総人口構成の推移と将来推計

出典：当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略

（総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計（平成 25 年 3 月推



図表 平成 27 年（2015 年）地区別人口・人口比率

出典：平成 27 年国勢調査

(4) 産業

■産業構造

- ・産業（大分類）別民営事業所の売上（収入）金額試算値 53,219 百万円（平成 26 年経済センサス基礎調査）。内訳は、第 1 次産業が約 4%、第 2 次産業が約 21%、第 3 次産業が約 75%となり、第 3 次産業が多い。

■就業者数

- ・当別町居住者の就業者数は合計で 8,412 人（H22 国勢調査）、第 1 次産業が約 17%、第 2 次産業が約 19%、第 3 次産業が約 64%。
- ・産業別就業者数の推移では、農業、林業、建設業などで就業者が減少し、特に、農業では平成 2 年（1990 年）から平成 22 年（2010 年）にかけて急激に減少。
- ・当別町居住者の就業者数は合計 8,412 人に対して、当別町で働く就業者数は 7,371 人（うち約 2,300 人が町外からの就業者）で、約 6 割が地元就業者となっている。
- ・当別町居住者の約 4 割（約 3,300 人）が町外で就業、その大半が札幌市で就業。
- ・当別町内の産業別就業者数では、農業が最も多く、1,376 人（うち町外からの就業者 59 人）、続いて建設業 835 人（同 338 人）、卸売業・小売業 800 人（同 158 人）。
- ・教育・学習支援業、製造業、建設業、医療・福祉などで町外からの就業者が多い。

■農業

- ・都市近郊型農業が特徴的。
- ・平成 25 年（2013 年）の農業産出額は、合計 780 千万円。
- ・産出額が多い農産物は、
米が 160 千万円（約 20%）、畑作物 90 千万円（約 12%）、花卉 90 千万円（約 12%）。
（出典：当別町農業 10 年ビジョン）

■観光業

- ・平成 27 年度（2015 年度）の観光客数は約 46 万人/年で、5 月～10 月が繁忙期となっており、約 4～7 万人/月が訪れた。
- ・道内客が全体の約 99.7%となっている。
- ・日帰客が全体の約 93.1%、宿泊客が約 6.9%となっている。
（出典：北海道観光入込客数調査報告書 H27 年度資料）

(5) 土地利用

■土地利用状況

- ・町南部の平野部に水田を主とした農業地帯が広がり、北部は道民の森をメインとした豊かな森林がある。
- ・市街地は、大きく本町地区と太美地区の二つの地域で形成され、そのほか金沢地区、スウェーデンヒルズ地区、みどり野地区などでまとまった住宅地がみられる。

(6) 地域の構造

人口、産業、土地利用などにより地域の構造は概ね以下のとおり整理される。

区分	概要	該当する地域	特徴
市街地	商業、行政、文化・スポーツ、交通など、まちの様々な機能が集中している自治体の中心地区	本町地区	[人口] 人口が多く、人口密度が高い [産業（施設）] 三次産業が集中している [土地利用] 住居・生活利便施設等が集中している
生活拠点地域	札幌圏に近く、JR駅および市街地にある機能の一部を有した生活拠点	太美地区（スウェーデンヒルズを含む）	[人口] 人口は多いが、市街地より人口密度がやや低い [産業（施設）] 産業は少ない [土地利用] 住居・生活利便施設等がやや集中している
周辺地域	農村集落におけるコミュニティ拠点（農業集落地区）	金沢、中小屋	[人口] 人口は少なく、人口密度が低い [産業（施設）] 観光、畑作 [土地利用] 住居が比較的密集している地区が一部あるが、全体的には分散しており、生活利便施設はほぼない
	自然型住宅群（自然型集落地区）	茂平沢（みどり野）、金沢（優良田園住宅地）	
	稲作や畑作など、農業を主産業とした地域で、住居が点在して分散している	茂平沢、東裏、蕨岱、蕨岱（東蕨岱）、刈雁、川下（右岸）、川下（左岸）、上当別、ピト工、高岡、当別太、弁華別、青山、青山奥	[人口] 人口が少ない [産業（施設）] 稲作・畑作、酪農・畜産、食品加工工場（ピト工） [土地利用] 住居が分散しており、生活利便施設はほぼ無い
隣接市町村	隣接する市町村	札幌市、江別市、石狩市、新十津川町、浦臼町、月形町、新篠津村	
圏域中心都市	商業、医療等、都市機能が充実した地域	札幌市	

3. 課題の整理

(1) 当別町の現状

当別町等が有するデータ、関係機関へのヒアリングから「当別町の現状」を以下のとおり整理した。

①生活

■買い物

現状	<ul style="list-style-type: none"> スーパーマーケット、コンビニエンスストア、商店などの約9割が本町地区に立地している。 太美地区にはスーパーマーケットがなく、コンビニエンスストア（2カ所）と酒・食品小売りをを行う商店（3カ所）が立地している。 本町地区は、食料品、日用品等のスーパーマーケット等があるため、中心市街地の住民は徒歩圏内で買い物できるが、郊外の農業地域の住民は車、バス等の交通手段が必要となっている。 太美地区は、主な商業店舗がコンビニエンスストアであるため、食料品、日用品等の買い物に不便をきたしており、住民の多くは札幌市北区方面に買い物へ行く状況にある。 太美地区の住民から地元へのスーパーマーケット等の立地の要望が多く、出店を予定している企業がある。 大型ショッピングセンターや専門店が町内にはないため、多くの町民は札幌市、江別市等の店舗に、JRや車により買い物に行く状況にある。 石狩当別駅、石狩太美駅周辺の土地を有効活用し、市街地の活性化が求められる状況にある。
----	---



当別大通



当別町共生型地域福祉ターミナル

■医療

現状	<ul style="list-style-type: none"> 町内の医療機関は本町地区（7カ所）、太美地区（2カ所）、歯科医院は本町地区（6カ所）と太美地区（2カ所）に立地している。 町内には産婦人科や耳鼻科がなく、その他専門医療についても、町内での受診ができないため、札幌市、江別市で受診している。 子育て世代からは、産婦人科の設置や小児科病院の増強等の要望がある。
----	---

■福祉

現状	<ul style="list-style-type: none"> 本町地区には、総合保健福祉センターが1カ所、介護サービスの提供施設が8カ所、障がい福祉サービスの提供施設が7カ所ある。 太美地区には、介護サービスの提供施設が3カ所、障がい福祉サービスの提供施設が2カ所ある。 その他地区には、介護サービスの提供施設が1カ所、障がい福祉サービスの提供施設が2カ所ある。 子どもからお年寄りまで、障がいの有無に関わらず、あらゆる人が支え、支えられ、いつまでも住み続けられる「共生のまちづくり」の拠点として、共生型福祉施設が3カ所ある。 ボランティアの登録人数は約1,800人で、住民の約1割に及び、活発なボランティア活動の素地がある。
----	--

■除雪

現状	<ul style="list-style-type: none">・豪雪地帯であり、冬季間の除雪や排雪作業は、高齢者等にとっては重労働で大きな負担となっている。
----	---

■文化・スポーツ・娯楽施設

現状	<ul style="list-style-type: none">・本町地区には、屋内体育施設として当別小学校プール、総合体育館、屋外体育施設として阿蘇公園野球場等、博物館として伊達家により開拓された当別町の歴史を伝える伊達記念館、伊達邸別館、当別町学習交流センターふくろう図書館、公衆浴場がある。・太美地区には、屋内体育施設として西当別コミュニティーセンターのアリーナ、屋外体育施設として遊遊公園、あいあい公園、西当別コミュニティーセンター図書室、公衆浴場が1カ所ある。・その他、東部地区（中小屋・金沢）にそれぞれ公衆浴場がある。・町内には図書室規模の施設が2カ所あるが、大規模な町立図書館がなく、地域住民から陳情が提出されるなど要望が多い。
----	--

■公共公益施設

現状	<ul style="list-style-type: none">・本町地区には、当別町役場、当別交番、当別消防署、当別郵便局、JA 北いしかりと銀行がある。・太美地区には、当別町役場太美出張所、太美駐在所、太美郵便局とJA 北いしかりがある。・役場庁舎、白樺コミュニティーセンター等の老朽化が進み、耐震対策が必要な公共施設の効率的な集約・統合や、建替・移転について検討が必要となっている。・中小屋地区に中小屋駐在所、弁華別地区、中小屋地区、東裏地区に簡易郵便局がある。・地区会館は各地区に設置されている。・地元商店街の有志による今後のまちづくりに向けたワークショップが実施されるなど、自発的な動きが見られる。
----	---

■学校関連施設

現状	<ul style="list-style-type: none">・本町地区には当別夢の国幼稚園、当別小学校、当別中学校、当別高校がある。・太美地区にはふとみ保育所、西当別小学校、西当別中学校がある。・15歳以上の通学者のうち45%は当別町内、55%は町外へ通学しており、多いのは町内で772人、札幌市で764人。・平成29年度（2017年度）より「当別町小中一貫教育」の取組みが開始された。・小中一貫教育を導入する当別中学校は、校舎の老朽化が著しく、建替や校舎統合の検討が必要となっている。
----	---

■住宅環境

現状	<ul style="list-style-type: none">• 当別町内には、平成25年（2013年）時点で住宅が7,930戸、平成15年（2003年）から平成20年（2008年）年間で増加したが、その後減少した。• 空き家は平成25年（2013年）時点で370戸、全体の約5%が空き家となっている。• 現在のアパート・マンションの総数は85棟1,146戸であるが、入居率は95%と高い。総数の63%（723戸）が学生の入居。（H28.11現在）• アパート・マンション物件の特徴としては、学生向け1LDKが特に多い。• 北海道医療大学の学部の新設や、あいの里キャンパスからの移転などにより今後も学生が増える可能性がある。• アパート・マンションのオーナーが高齢化し、建物の老朽化に対応しにくい状況にある。• 町営住宅の老朽化による建替に絡めた施設の統合や、官民連携手法について検討が必要である。• 高齢者が、通院の利便性や除雪等が負担とならない生活を求め、札幌市のマンション等に転出するケースが増えている。
----	---

②交通

現状	<ul style="list-style-type: none">• 従前は自治体、大学、住宅地開発事業会社が各々独自運行しており、重複した時間帯及びルートでの路線バスや送迎バスを一元化し、あいの里金沢線、青山線、市街地予約型線の3路線で運行している。（P.3参照）• JR学園都市線により、札幌市、太美地区、本町地区、北海道医療大学が結ばれている。• JR電化により札幌との交通アクセスが向上したことを活かして、交通ネットワークの充実を図るため、駅を基点としたふれあいバス等の交通アクセス網の見直し・強化が必要となっている。• 国道337号や国道275号など幹線道路があり、札幌市や新千歳空港、石狩湾新港などへのアクセスが良いことや、物流交通量が多く関連する企業等の誘致が見込めるほか、道道による充実した道路網が形成されている。• ふれあいバス市街地予約型線の更なる活用、拡大等について検討が必要となっている。• 高齢者等が、町外の病院へ行く場合、通院にかかる交通手段を充実する必要がある。• 高齢化社会に対応したバス、タクシー等の交通手段の強化・見直しが必要となっている。
----	---

③エネルギー

■木質バイオマス

現状	<ul style="list-style-type: none">• 町の面積の約6割を森林が占めており、エネルギー賦存が高い。• 森林資源の導入可能量の調査や、木質バイオマスに係る地域循環可能性を検討してきた。• 平成27年（2015年）に町民有志の勉強会が「当別町の木質バイオマス利用推進について」を提言している。• 賦存量は約3～4万GJ/年と推定（民有林のみでも2～3万GJ/年）。（仮に3万GJ/年とした場合、当別町の公共施設の熱エネルギー（約1.7万GJ/年）に加え、花卉栽培農家40戸分または戸建住宅250戸分に相当の熱エネルギーが自給可）• 町最大級の指定避難所である「当別町総合体育館」に、木質ペレットボイラー（太陽光発電システム、蓄電池システム）の設備を導入。同時にカーボンオフセット（Jクレジット制度の登録）に取り組む。• 民間企業が主体となった木質バイオマスの取組で、札幌都市圏にしながら田舎暮らしを体験できる「菜園付きエコアパート」にペレットストーブを設置している。
----	--

■地中熱

現状	<ul style="list-style-type: none">• 太美地区では、旧青少年会館、西当別コミュニティセンター、西当別中学校にて、具体的な熱量を測る地中熱ボーリング調査を実施。当該地区には温泉施設もあり、豊富な地中熱が見込まれ、各種分野での可能性を秘めている。• 再生可能エネルギー等を活用した水耕栽培実証事業を実施、冬季農業の活性化を目的に、「地中熱」、「LED」、「ICT技術」を使い、通年栽培の可能性の実証実験を行っている。• 平成29年（2017年）秋に開業予定の道の駅では、地中熱を活用した暖房を導入予定である。
----	---

■太陽光

現状	<ul style="list-style-type: none">• 日照時間、まとまった面積の確保、冷涼な気候（発電効率良）、日光を遮るような高い建物も少ないなど、太陽光発電に好都合な条件あり。• 平成27年2月23日「ゆとりっち稲穂太陽光発電所」を設置し、FIT売電している。（平成47年1月まで）発電出力は48kW。
----	---



菜園付きエコアパート



ゆとりっち稲穂太陽光発電所

④地域資源

<p>現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光名所が9カ所、レジャースポットが5カ所あり、イベントが5つ、収穫体験が3カ所ある。 ・札幌市に近くアクセスも容易であり、自然に恵まれた環境がある。 ・ゴルフ場やホーストレックなどアウトドア系のレジャー施設がある。 ・平成29年（2017年）秋、国道337号沿いに観光や農業などの基幹産業の情報発信の拠点となる道の駅が開業予定である。 <p>[観光名所] 石狩川「文学碑」、本庄陸男生誕の地碑、亜麻の花、伊達記念館・伊達邸別館、開拓記念樹、スウェーデン交流センター、レクサンド記念公園、見晴らしの水松、当別ダム</p> <p>[レジャースポット] 道民の森、乗馬施設、スキー場、ゴルフ場、パークゴルフ場</p> <p>[イベント] さん・産・フェスタ、当別町文化祭、夏至祭、あそ雪の広場、北海道亜麻まつり in 当別</p> <p>[収穫体験] (有)大塚農場（東裏：いも掘り）、のぐち農場（中小屋：イチゴ狩り）、フレンドリーファーム（獅子内：各種農業体験）</p>
-----------	--

⑤当別町版 CCRC（生涯活躍のまちづくり）構想

<p>現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スウェーデンヒルズ地区は、人口が増加し続けている地域で、住民の8割が道外からの移住者であり、CCRC構想の動きに先行した地域である。 ・スウェーデンヒルズを含む太美地区及び道の駅を含むエリアを中心にした当別町版 CCRC（生涯活躍のまちづくり）構想について、より魅力あふれるまちづくり計画につながる内容・方針となるよう検討を進めている。
-----------	--



道民の森



夏至祭



当別町版 CCRC 構想

(2) 課題の整理

地域協議会の議論、関係機関へのヒアリングから、「地域の課題」を以下のとおり整理した。

① 生活関連

■買い物

- ・本町地区は、食料品、日用品等のスーパー等があるため、中心市街地の住民は徒歩圏内で買い物できるが、郊外の農村地域の住民は、車、バス等の交通手段が必要である。
- ・太美地区は、商業施設が不足している。

■医療

- ・産婦人科の設置や小児科病院の増強等。

■福祉

- ・一人暮らしの高齢者対策。

■除雪

- ・冬期間の高齢者等の除雪、排雪の対策。

■公共公益施設

- ・役場庁舎、白樺コミュニティーセンター等の老朽化・町内に公設の図書館がない。

■教育施設

- ・小中一貫教育を導入する当別中学校は、校舎の老朽化が著しい。

■住宅環境

- ・空き家対策。
- ・地方出身及び町外から通学している北海道医療大学生の町内居住促進。
- ・公営住宅の老朽化による建替を含めた施設の統合。

② 交通関連

■交通

- ・道央圏連絡道路国道 337 号の四車線化による交通アクセスの向上を利用した沿線の土地利用について。
- ・ふれあいバスの市街地予約型線の更なる活用、拡大。
- ・医療施設は、本町地区と太美地区の中心市街地に立地しているが、郊外の住民が利用する際の交通手段の確保。
- ・高齢者等が町外の病院に行く場合、通院にかかる交通手段の充実。

③ エネルギー関連

■再生可能エネルギー

- ・温室効果ガス削減のため、公共施設や事業所など、更なる再生可能エネルギーの導入。
- ・豊富な資源はあるが、経済活動等に十分に生かし切れていない。
- ・森林資源においては、伐採適齢期の材も含め未着手の部分があり、材の生産や活用について。
- ・木質をはじめとするバイオマスや、地中熱など豊富な地域資源を活用した循環型社会の形成。
- ・再生可能エネルギーを利用した産業への参入、企業誘致により、農閑期または冬期間を含めた通年雇用の促進。
- ・町のコンパクト化と連動した、スマートタウン、スマートコミュニティなどの検討と、本町、太美地区、それぞれの特性にあった適切なエネルギー導入の模索。
- ・廃食油の回収を促進し、バイオディーゼル燃料の多様な活用。
- ・再生エネルギー設備の導入費用等の財源確保。

④地資域源関連

■地域資源

- 札幌市に隣接し、小樽市や新千歳空港などからも交通アクセスが良い地理的特性や、道民の森など豊かな自然環境、特色あるスウェーデン王国との国際交流など地域資源の活用について。
- 平成 29 年秋に開業する「道の駅」を活用した札幌市等からの集客についての手法、施策。

⑤当別町版 CCRC（生涯活躍のまちづくり）構想

■CCRC 構想

- スウェーデンヒルズや道の駅を含む太美地区エリアを対象とした CCRC 構想の実現。

4. 取組の方向性と具体的な取組

(1) 取組のコンセプト

次の2つのコンセプトのもと今後の取組の方向性をまとめる。

- コンセプト A は、産業や生活など地域特性を考慮したまちづくりについて、5項目に区分し検討する。

A 中心市街地を形成する本町地区と住宅地を形成する太美地区、この二つの市街地と、周辺地区においては基幹産業である農業地帯、また地元唯一の医療系総合大学が存在し、それぞれの特性を活かし、交通ネットワーク等の充実のもと、安全・安心な暮らしやすい地域づくりを進める。

A-1 市街地機能の再生、まちなかの賑わい創出

A-2 買い物環境の確保・充実

A-3 高齢者等の生活支援の維持・充実

A-4 生活交通の充実・強化

A-5 移住・定住・交流の促進

- コンセプト B は、地域エネルギーを活用したまちづくりについて、検討する。

B 地域エネルギー資源の活用によって、地域循環型社会をめざす。

(2) 取組の方向性と具体的な取組

各々のコンセプト毎、取組の方向性及び具体的な取組は、次のとおり。

A 中心市街地を形成する本町地区と住宅地を形成する太美地区、この二つの市街地と、周辺地域においては基幹産業である農業地帯、また地元唯一の医療系総合大学が存在し、それぞれの特性を活かし、交通ネットワーク等の充実のもと、安全・安心な暮らしやすい地域づくりを進める。

A-1 市街地機能の再生、まちなかの賑わい創出

【取組の方向性】

市街地機能の再生を目指し、駅前開発による居住誘導、公共公益施設の再配置、商業機能・文化機能など多様な都市機能の集積を図るとともに、地域交通により生活利便施設等にアクセスできるコンパクトなまちづくりを進める。

【具体的な取組】

◎市街地機能の再生、まちなかの賑わい創出。

○本町地区

- ・まちの核となる公共公益施設（役場庁舎、小中学校、図書館、文化センター等）の整備
- ・民間活力を導入しながら高齢者、若者、働く子育て世代など多様な世代に適應した住宅の建設
- ・空き家の有効活用
 - 〔官民の連携、役割分担による空き家の状況把握
 - 所有者と利用希望者のマッチングを促進
 - （住み替え、売買、改築、税等の相談、物件情報を積極的に発信するなど）
- ・アパート組合への働きかけを通じ、今後需要が見込まれる学生向けアパートの確保
- ・住民、観光客等が夜間を安全に歩行できるよう市街地街路灯の整備を推進

○太美地区

- ・太美地区を中心とした当別町版 CCRC（生涯活躍のまちづくり）構想に基づく取組の計画的、段階的な推進（内閣府「地域再生制度」など）

◎消費の町外流出の抑制、地域経済の活性化。

○本町地区、太美地区、周辺地域間の連携

- ・本町地区と太美地区間のふれあいバスの運行強化、周辺地域との交通ネットワークの充実
- ・道の駅周辺（国道337号沿線）への食産業・流通業の誘致による産業振興、雇用創出の推進

○道の駅から町内周遊の促進

- ・インフォメーションコーナー等において、町内情報を積極的に発信
- ・積極的なイベント等の開催

○地元農産物の加工、ブランド化、新たな特産品の企画開発・販路拡大

- ・地域商社による取組への支援
 - 〔地元農産物の加工、特産品の開発・改良、国内外への販路拡大の支援（町「地域商社推進業」）

A-2 買い物環境の確保・充実

【取組の方向性】

商店街の賑わい創出、活性化に向けた取組みを推進するとともに、道の駅を活用した買い物環境の向上を図る。また、買い物弱者を支える買い物環境の確保・充実を図る。

【具体的な取組】

- ◎本町市街地の再生を一体的に進めることによる商店街の充実、活性化。
 - ・商店街の充実、活性化に向けた本町市街地再生の一体的推進・伴走型支援の実施による、商店街の魅力を高めた、立ち寄りやすい環境づくり（経済産業省「小規模事業者支援推進事業」、商工会「起業塾」）
- ◎見守り、買い物等の生活支援が必要な高齢者等に対する支援。
 - ・高齢者等の買い物付き添い等の生活支援のための有償ボランティアに対する補助（町「買い物支援サービス事業」など）
- ◎道の駅での付加価値の高い商品の提供。
 - ・地元農産品及び加工食品、特産品の販売などのほか、姉妹都市である宮城県大崎市、愛媛県宇和島市、近隣自治体等の商品の販売を行う（町「地域商社推進事業」）

A-3 高齢者等の生活支援の維持・充実

【取組の方向性】

高齢者等が安心して地域に住み続けられるよう、見守り、病院への付き添い、冬期除雪、雪捨場の確保など、在宅のための生活支援について、ボランティアを活用するなど、連携・協力、充実に努める。

【具体的な取組】

- ◎高齢者等の介護、見守り、生活支援。
 - ・地域、当別町、社会福祉団体、北海道医療大学、ボランティア等との連携・協力関係を強化する仕組の構築
 - ・生活支援を必要とする高齢者に対し、家事支援や外出支援等を提供する有償ボランティア制度の確立（町「地域生活サポーター活動支援事業」）
 - ・雪堆積場として空き地等の活用や堆雪スペースを確保した住宅づくりなど、雪の負担を軽減する仕組みづくり
 - ・当別町、商工会などが連携・協力、情報共有を図ることによる除雪、雪対策の充実

A-4 生活交通の充実・強化

【取組の方向性】

当別ふれあいバスについて、町民のニーズ等を把握しながら、更なる利便性の向上を図り、バス運行の充実・強化に努める。



【具体的な取組】

◎ふれあいバスの利用促進。

- ・高齢者等が安心して利用できるとともに、自動車免許返納後の利便性向上への環境づくり
〔自治会・老人会等での市街地予約型線の利用方法の説明や乗車体験会の開催
乗降サポート体制の構築 など〕

◎ふれあいバスの路線運行の維持充実、運営の効率化。

- ・道の駅オープンに伴う路線の新設
- ・関係機関との連携、町内会への聞き取りを通じた、利用実態及び利用者ニーズ等の把握、モニタリングを適宜実施
- ・単独で送迎バスを運行している事業者の当別町地域公共交通活性化協議会への参画検討（町「地域公共交通活性化協議会」）
- ・バス車両を広告媒体としたラッピング等による営業収入の確保の検討

A-5 移住・定住・交流の促進

【取組の方向性】

まちの特性、魅力を活かしながら、「当別町版 CCRC（生涯活躍のまちづくり構想）」などによる高齢者、子育て世代など、多世代の移住・定住の促進を図るとともに、北海道医療大学との連携による大学生の町内居住の促進に取り組み、多世代の交流促進を図る。



【具体的な取組】

◎移住者と地元住民の多世代間交流の促進。

- ・アクティブシニアをはじめ、子育て世代など幅広い年代層をターゲットとした、生涯学習、イベント、趣味・サークル等の実施、北海道医療大学と連携したプログラム講座による交流促進
- ・移住希望者向け除雪体験ツアーなど、雪への対応や理解を深め、移住・定住を促進する取組

◎子育て・見守り・介護など世帯間が支え合える働き方や住まい方を推進する生活環境づくり。

- ・在宅就労やサテライトオフィスの環境整備、子供の教育環境の充実など、子育て中の女性等が多様な働き方が選択できる労働環境改善の検討
〔小中一貫教育を地域全体で進めるため、コミュニティスクールによる地域とともにある学校づくりを行う環境の提供（町「コミュニティスクール運営事業」）〕
- ・働く若い世帯と親世帯の隣居、近居支援の検討
- ・「季節による二地域居住」の取組の推進
〔冬期間、郊外に住む高齢者等の市街地居住を目的に、移住・定住のお試し制度の住宅やまちなかの空き家を活用〕

◎北海道医療大学生の町内居住の促進。

- ・市街地機能の再生と連携した学生が集える居場所づくり
- ・学生向けアパートの確保・充実（町「学生居住 1000 人プロジェクト」）

◎交流人口の促進に資する地域資源の活用。

- ・伊達記念館・伊達邸別館と調和の取れた周辺地域の景観形成の検討や、観光 PR など

B 地域エネルギー資源の活用によって、地域循環型社会をめざす。

【取組の方向性】

○地域資源である木質バイオマスや地中熱を始めとする再生可能エネルギーの積極的な導入を図り、地域経済の活性化、持続可能で自主自立した循環型社会システムの構築を進める。



【具体的な取組】

◎地域エネルギー資源の有効利用の継続、普及啓発により、エネルギー循環への意識の高まりを浸透させた、循環型社会形成の促進。

- ・ふれあいバスの廃食油バイオディーゼル燃料の使用
- ・公共公益施設での太陽光発電及び民間事業者と連携をした太陽光発電の設置などを継続実施

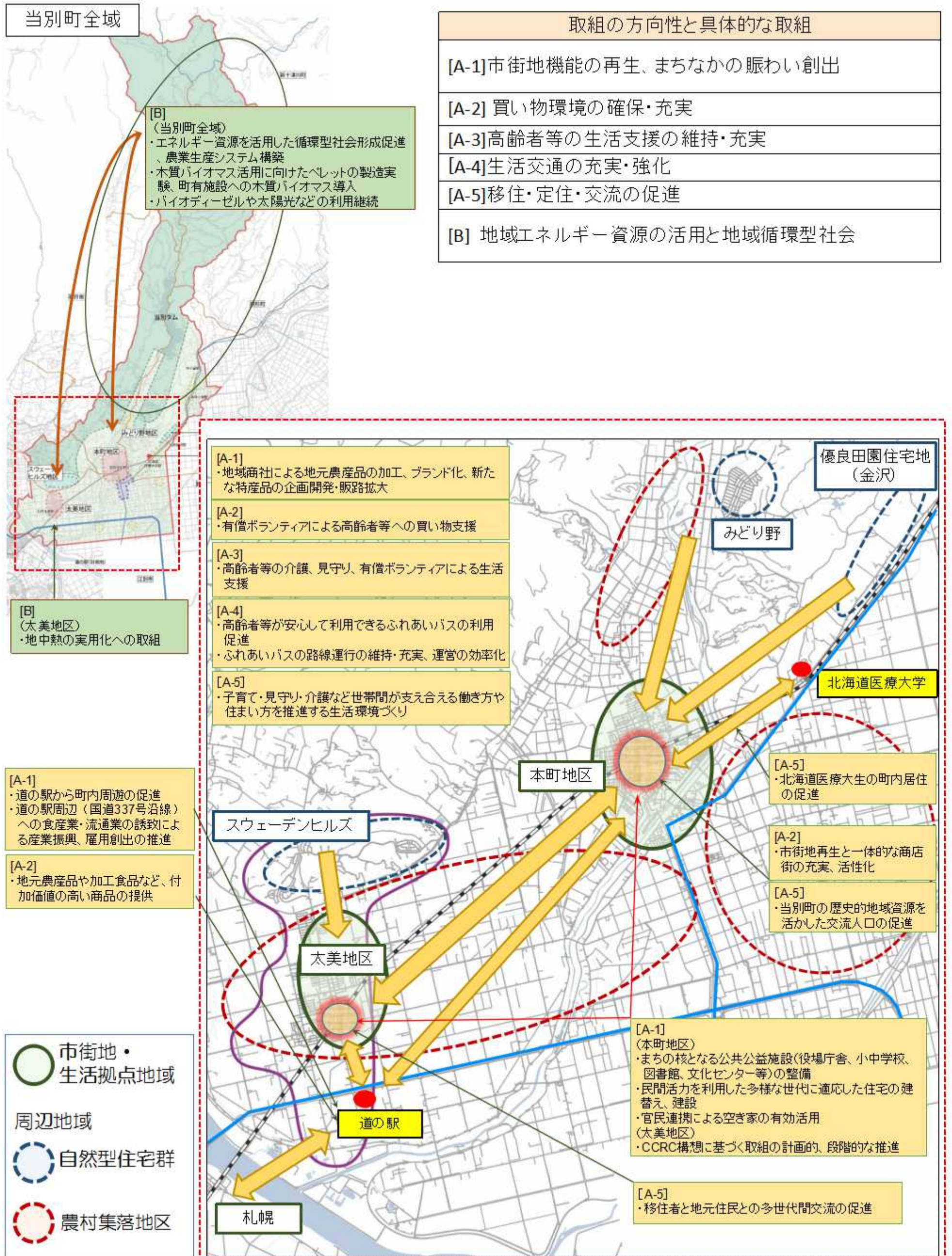
○地域特性を生かした新たな取組の検討

- ・ペレットストーブが設置された「菜園付きエコアパート」事業など、民間企業との連携による取組
- ・地中熱・雪氷熱・木質などを活用した水耕栽培等の農業生産システム構築の実証実験と早期の実用化に向けた取組
- ・豊富な森林資源を活用したペレット製造の事業化に向け、主要木材トドマツの原材料としての適性を検証するための、製造実証及び成分分析（「当別町産木質ペレット製造実証事業」）
- ・間伐適齢期を迎えた森林の適切な整備を進めるとともに、持続的な間伐材の販売を促進する林道の整備（道「道営森林管理道管根の沢線開設事業」）

○コンパクトなまちづくりに資する地域資源の活用促進

- ・木質バイオマスや地中熱などを活用した地域熱供給、地域融雪、小水力発電などの検討
- ・公共公益施設の新設や設備更新に合わせた木質バイオマスボイラーの導入など、町の率先した利活用
- ・温泉施設や民間企業社屋への木質バイオマスボイラーの導入、一般住宅の木質ストーブの導入支援など普及促進の検討

参考図：地域における具体的な取組のイメージ



○資料編

資料1 「北の住まいるタウン」当別町地域協議会構成員名簿

「北の住まいるタウン」 当別町地域協議会

(構成員)

No.	団体・企業名	役職	氏名	備考
1	北海道開発局札幌開発建設部 都市圏道路計画課	課長	宮崎 貴雄	
2	北海道医療大学	副学長	黒澤 隆夫	座長
3	当別町商工会	理事	泉亭 英徳	
4	北石狩農業協同組合	専務理事	且見 英和	
5	当別町農業経営近代化協会	会長	栄木 敏文	
6	JR北海道 石狩当別駅	駅長	横関 章	
7	下段モータース	社長	下段 聡	
8	社会福祉法人当別町社会福祉協議会	事務局長	高橋 通	
9	北洋銀行当別支店	支店長	鈴木 芳則	
10	石狩北部森林組合	組合長	六角 英一	

(オブザーバー)

No.	団体・企業名	役職	氏名	備考
1	石狩振興局地域創生部地域政策課	課長	今田 美幸	
2	石狩振興局森林室普及課	課長	橋本 治	
3	空知総合振興局札幌建設管理部地域 調整課	課長	木村 英也	

(事務局)

No.	団体・企業名	備考
1	当別町	
2	北海道建設部まちづくり局	

(平成 29 年 3 月現在)

資料2 「北の住まいるタウン」当別町地域協議会取組経過

地域協議会の流れ

検討内容

地域協議会（第1回）
平成28年9月21日（水）実施
課題の整理（3章参照）

- 当別町の概況（地勢、人口動態、産業など）及び現状や想定される課題から、協議会構成員の意見を聴取。



地域協議会（第2回）
平成28年12月16日（金）実施
取組の方向性（4章（1）参照）

- 抽出された課題から取組の方向性案を作成し、その方向性案や参考事例をもとに、取組の方向性について検討。



地域協議会（第3回）
平成29年2月22日（水）実施
具体的な取組（4章（2）参照）

- 第2回で議論した取組の方向性をもとに、具体的な取組案について検討。



地域協議会（第4回）
平成29年3月29日（水）実施
取りまとめ、今後の進め方 など

- 第1～3回の議論を踏まえて、計画（案）の検討。
- 今後のスケジュール等について検討。